



The Ribbon International

Ribbon 2020 – Tangible Hope for No Nuclear War

リボンでつなごう核兵器廃絶の思いを

2020年8月2日（日）に各地でみなさんの都合のつくところで、核兵器廃絶の願いを共にする人とリボンで意思表示をしませんか。



「リボンてなに？」「これがリボン？」 きっとあなたもそう思われたことでしょう。

リボンとは、核兵器廃絶の願い、平和への願い、核戦争を阻止したいという願いを表示する布です。表現内容も表現手段も自由です。刺繍やアップリケ、ペイントした絵や文字、手形を押したりと表現の手段も色も実に様々。今までに世界中

で多くの人たちがリボンを作り、大勢で、数人で、時には一人で、様々な場所に集まり平和への願いを表現してきました。

今世界は冷戦時代と同じぐらい、もしくはそれ以上に核戦争に近づいている様相を呈しています。

リボンインターナショナルでは原爆投下 75 年目に当たる 2020 年の 8 月 2 日（日）、そう、東京オリンピック開催中に、日本の各地で、そしてニューヨークで、仲間たちとつどい、リボンでみんなの願いと心をつなぐイベントを計画しています。あなたもぜひご参加ください。

リボンインターナショナルは、1982 年に広島原爆資料館（広島平和記念資料館）を訪れ、愕然とした思いで帰国したアメリカ人、ジャスティン メリットによって始められました。

彼女は当時一触即発だった米ソの冷戦を憂え、広島・長崎原爆投下 40 周年の日に「リボン」を作って、ワシントンのペンタゴンを囲み、「核戦争で、全てを永久に失うことは出来ない」というメッセージを伝えようと、友人に呼びかけました。

1985 年 8 月 4 日、呼びかけに応じたジャスティンの友人や多くの人々が、ワシントンにリボンを持ち寄りました。そして 15 マイル（約 24 キロ）の長さに繋ぎ合わされたリボンで、ペンタゴンとその周辺の建物を囲みました。

同じ日に広島でも、カリフォルニアや東京からリボンを持って集まってきた人々を中心とするグループが、原爆ドームをリボンで囲みました。

その後、リボンインターナショナルは 国連より NGO としての認証を受けました。そして現在に至るまで、様々な国の様々な場所でリボンが作られ、コミュニティでの集まりや追悼の会では、それらを繋げて平和への祈りを捧げています。

The Ribbon International (NGO)

問い合わせ先 info@theribboninternational.org

日本語でのお問い合わせにも対応いたします。

<リボンの作り方 裏面です>

<リボンの作り方>

サイズは縦 50 cm、横 1mの布（材質、色、模様は問いません）に、刺繍、アップリケ、マーカー、手形（私達のコレクションには、ケニアの子供達のかわいい手形のリボンもあります。）等で、あなたが願うこと、あなたの大切なものを何でも自由に表現して下さい。

布の四隅にはリボン（紐でも布テープでも良い）を縫い付けます。裏に、制作された年月日、場所、イニシャルやサインを入れても良いです。

（上のロゴや、リボンのサイト www.theribboninternational.org を参考にさせていただきます。）



↑ THE RIBBON : <http://www.theribboninternational.org/events.html>